

G.guanchinense と G.rhodantherum

2011 年 8 月 28 日

島田 孝

1. はじめに

G.guanchinense(和名 ; 歓喜玉、グアンキネンセ)と **G.rhodantherum**(和名なし)は、研究者や趣味家により、同じ種である、違う種である、さらには、他の種も含めて **G.rhodantherum** であるとする、いろいろの見解がある種です。種を細分化する、オーストリア・ギムノ愛好家グループ(AGG)の H.Till 氏の考え方を中心に、現在でも、まだ結論が出ていない、この類縁関係種に関して、まとめて見たいと思います。

2. Rhodanthera 集合体(Aggregat)

AGG の H.Till 氏は、属 **Gymnocalycium** に関する、彼の長年の研究成果を新しい分類体系にまとめました。(2001 年、2008 年) その中で、亜属 **Microsemineum Schütz**、節 **Saglionia Schütz**、亜節 **Microsemineum H.Till**、列 **Mostiana Buxb.**を **Mostiana**、**Hosseiana**、**Oenanthema**、**Rhodanthera**、**Spegazziniana** の五つの 集合体(Aggregat)に分割し、より近い類縁関係の種をグループ分けしました。**Rhodanthera** 集合体には、ここで、主に取り扱う、**G.guanchinense** と **G.rhodantherum** の他に **G.alboareolatum**、**G.jochumii**、**G.ritterianum**、**G.weissianum**(和名 ; 華武者)の分類学種が含まれています。

Mostiana 集合体は和名 ; 紅蛇丸、**Hosseiana** 集合体は和名 ; 魔天竜、猛鷲玉、**Oenanthema** 集合体は和名 ; 純緋玉、**Spegazziniana** 集合体は和名 ; 天平丸、碧巖玉の類縁関係種が含まれると考えると分かりやすいと思います。

H.Till によると、Backeberg 氏が学術記載した **G.weissianum** については、Piltz 氏が、**G.mazanense v. polycephalum nom. nud.**としたものと同じ種ですが、この見解には、同意していない研究者もいて、**G.weissianum** は、**Hosseiana** 集合体 (Aggregat) の **G.hossei** の変異幅に含まれ、**G.hossei** と同じであるとする人もいて混乱しています。

Hosseiana 集合体に関しては、H.Till 氏は、詳しい報告をまだ記述していませんが、彼の分類では、**G.ferrarii Rausch**、**G.hossei (F.Haage) A.W.Hill**、**G.hossei var. breviflorum (Backeb.)H.Till** (和名 ; 若武者)、**G.hossei var. nidulans (Backeb.)H.Till** (和名 ; 猛鷲玉)が含まれるとしています。H.Till 氏は、既に、1987 年に Backeberg 氏の **G.mazanense** (和名 ; 魔天竜)の学術記載は、葯の色などから怪しいとし、…… “**G. mazanense** は疑わしい名前(nomen dubium)と見なす事がより良い様に思える。それ故、**G.hossei** 集合体に最も近くに在る。” ……と記述しています。しかし、この文献では、**Rhodanthera** 集合体と **Hosseiana** 集合体を同じ集合体と考えていました。



写真 1 : G.mazanense v. polycephalum
P223 ex Piltz = G.weissianum sensu
H.Till 筆者栽培・撮影

2004 年 H.Till 氏は、“**G.rhodantherum** とその類縁関係にある分類学種に対する所見 (Bemerkungen zu *Gymnocalycium rhodantherum* und den mit ihm verwandten taxa)” の中で、次のように述べて、**Rhodanthera** 集合体と **Hosseiana** 集合体を明確に分離しました。

…… “包括的な野外での研究と栽培での長年の観察から **Mostiana** シリーズ (節) は五つの異なる発展系統から成り立っていることが示されている。

1) **G.rhodantherum** とその類縁関係の分類学種；これらの分布地域は La Rioja 地方の東部は Sierra de Velasco と西部は Sierra de Famatina そして南西部は Sanagasta の間に存在する。

2) **G.oenanthemum Backeberg** の類縁関係種；これらの生息圏は Catamarca 地方の Sierra de Ambato の両側に横たわっている。

3) **G.spegazzinii Britton & Rose** の類縁関係種；これらの分布地域は南ボリビアのアンデス山脈の東縁に沿って二つのアルゼンチンの地方 Salta と Tucuman さらに Catamarca 地方の北部、Salar de Pipanaco そして西側の Sierra de Manchao に存在する

4) **G.mostii (Gürke) Britton & Rose** の類縁関係種；これらの生息地は主に Cordoba 地方に存在し又、変化した形態の **G.nigriareolatum Backeb.** は Catamarca 地方の Sierra de Ancasti と Sierra de Graziana の間に存在する。

5) **G.hossei (F.Haage) A.W.Hill** の類縁関係種；これらの分布地域は La Rioja 地方の Sierra de Mazan 地方と西側の Sierra Ambato そこは Catamarca 地方との境界を成している。



写真 2：Kakteenkunde の **G.rhodantherum**



写真 3：G.rhodantherum(**G.guanchinense** VS39, Mesa468.49 として) 筆者栽培・撮影

G.mostii だけはその良く規定できることと、良く区別できることが理由で **Mostiana** シリーズ (節) の残りの分類学種に比べて、いわゆる古い分類学種のように見える。残りの分類学種の成立は、それらの大きな変異性と相互にうまく区分する事の難しさにより判別は、本質的に遅くなると判断される。

上述の仕様に従えば **G.mazanense** と **G.rhodantherum** は二つの異なった発展系統に所属している。それ故、**G.rhodantherum** は独立の種として承認される。それに反して示された 3 つの種 **G.rhodantherum**、**G.guanchinense**、**G.ritterianum** の対比では、ほんの僅かな顕著な相違しか存在しない。そして、これらを別の類縁関係分類学種に区分けすることは有効である。そこから我々は、一つの類縁関係についてのみ述べる事が可能である。最も古くに指定された分類学種に従ってここでは **Rhodantherum**

類縁関係と呼ばれる。”……

しかし、この文献で、H.Till 氏は、*Gymnocalycium rhodanthelum* (Boed.) H.Till の Synonym(異名同種)として、*Echinocactus mazanensis* var. *breviflorus* Backeberg (1932) = *G.mazanense* var. *breviflorus*(和名; 若武者)を挙げていますので、この時点では、*G.mazanense* var. *breviflorus* を同じ種と考えていました。2008 年の分類体系、Auflistung der Taxa und Querverweis(学名と相互参照リスト)には、*Hosseiana* 集合体の *G.hossei* var. *breviflorus* の Synonym(異名同種)として、*G.mazanense* var. *breviflorus* を理由なしに挙げています。H.Till 氏の詳しい報告が記述されていませんが、直近の情報では、*G.rhodanthelum* と *G.mazanense* var. *breviflorus* = *G.hossei* var. *breviflorus* は異なる種と考えて良いと思います。

3. *G.rhodanthelum* と *G.mazanense* var. *breviflorus* の混同

Bödeker 氏は、1934 年、Kakteenkunde の中で、*Echinocactus* (*Gymnocalycium*) *rhodanthelum* を学術記載しました。彼はその中で、Backeberg 氏の *G.mazanense* var. *breviflorus* の関係を次のように述べています。

・・・“1932 年には既に、当地の、あるコレクション (Fr. Schuster 氏、Köln-Sülz) の中で、Cordoba(アルゼンチン)の一人の採取家、Fr. Harperath 氏により送付されたギムノカリキウム種を、私は見た。それは奇妙な事に、人目を引く、美しい暗赤色の葯を備えた、バラ色の花を持っている。その後、1933 年の翌夏に、同じような花持つ、しかし、刺は、全く同じでは無い 2 つの個体が開花した。その後、私は偶然に Kakteenfreund の中の *Gymnocalycium mazanensis* var. *breviflorus* Backbg.の写真を見た。そして *Ects.* (*Gymnocal.*) *mazanensis* Backbg.の学術記載を通読した後に、上記の植物は変種 *breviflorus* と同一であると認識した、そして恐らく変種 *roseiflorus* 自体とも同じであると認識した。しかし、もし *Ects.* *mazanensis* Backbg.の基準標本が、Backeberg 氏の申告、明るい色の庚申薔薇 (Teerose) 色、つまり、黄色い花を咲かせるなら、そしてもし、この雄蕊が黄白色で、その他の相違点が、もっと有るならば、上記植物は、*Ects. mazanensis* Backbg.の変種が、此处では問題になっているの



写真 4 : 1960 年前半に播種した Uhlig 種子の *G.mazanense* var. *breviflorus* 葯は赤っぽい
筆者栽培・撮影

では無く、新種が問題になっている、とりわけ暗赤色の葯もまた、幾分完全な特性と異常性である。ケルン(Köln)訪問の際に、私は、Backeberg 氏に、この上記の事実を伝えた。彼が、私がそれを変更する。そして彼の口頭による同意で持って、私は、今や疑わしい変種 *breviflorus* を固有の種として、これでもって、それを *Ects.* (*Gymnocal.*) *rhodanthelum* Böd, sp. n.と命名する。”・・・

彼自身は、間違っ産地を Salta としていますが、Mazan 産の *G.mazanense* var. *breviflorus* と同じ種であると考えています。そして、葯の色の違いにより、*G.mazanense* の変種では無く、新種と考えるべきとしています。1959 年 Backeberg 氏は Cactaceae III の中で、Bödeker 氏による *G.rhodanthelum* は、*G.mazanense* var. *breviflorus* Backeberg と同じであると言う診断を下して

います。けれども **G.mazanense** の葯の色は Backeberg 氏の学術記載では、黄色(正しくは、雌蕊と雄蕊は黄白色)とされています。Mazan 近郊の **G.mazanense**、**G.hossei**、**G.nidulans**、**G.weissianum** として分類された、H.Till 氏による **Hosseiana** 集合体は、葯が、殆どのものが、薄いピンク色から赤色で、黄色のものは極めて少ないと考えられます。ちなみに、**G.mazanense** var. **breviflorum** については、学術記載では、葯は茶色っぽい赤色とされています。H.Till 氏は、学術記載で、Backeberg



写真 5 : 葯が黄色い、**G.mazanense**
BKS122a/2 ex Haage **G.mazanense**
(=**G.hossei**)では無いかも知れない。
筆者栽培・撮影

氏が、**G.mazanense** の葯の色を **G.nigriareolatum** の其れ(黄色)と合わせてしまった事が想像できる。とし、**G.mazanense** の学術記載は疑わしいとしています。

H.Till 氏は、学術記載を詳細に調査し、次のように書き、**G.rhodantherum** の産地を特定しています。……“赤い葯を持つギムノカリキウム (その事により種 **rhodantherum** (rote 赤い Antheren 葯) と名付けられた) は Salta 地方では発見できなかった。Cordoba 地方の小さな群生地を除いて赤い葯を持つギムノカリキウムの出現は La Rioja 地方のみで観察されている。**G.rhodantherum** の生息圏は北部の Campans と Pituil を結ぶ線から南の方へ Cuesta de Guanchin の両側まで存在する。相対的に狭い分布地域(直線距離で約 60km)にもかかわらず、形態学的にまちまちな群生地がここでは見出される。”……

H.Till 氏の主張する、**Rhodanthera** 集合体と **Hosseiana** 集合体の間には山脈、Sierra de Velasco があり、区分出来るように思いますが、**G.rhodantherum** が確実に、彼の主張する産地からの分類学種であるとは、言いきれませんが、多くの研究者や趣味家が、そこからの種を **G.rhodantherum** としています。

Rhodanthera 集合体の葯の色については、**G.weissianum** sensu Till = **G.mazanense** v. **polycephalum** の葯は赤く無いですし、**G.rhodantherum** とされるものの中にも、葯がそんなに赤く無いものがあると思います。一方、**Hosseiana** 集合体の中には、かなり葯が赤いものも見られます。葯の色だけで、二つの集合体が区分されたのでは無いと理解しています。

4. **Rhodanthera** 集合体(Aggregat)の分布図

G.rhodantherum 関係種の分布を図 1、Field 番号をベースとする、**Rhodantherum** 関係種の産地比較表を表 1 に示します。

G.rhodantherum は、図 1 から広い範囲に分布しており、表 2 からは、いろいろな種として同定されていることが分かります。(**G.nidulans**、**G.weissianum**、**G.guanchinense**) この同定されている種は **G.rhodantherum** で無い場合もあると思いますが、多くは **G.rhodantherum** の可能性が高いと思います。

また、**G.rhodantherum** を **G.guanchinense** とし、本来の **G.guanchinense** を **G.rhodantherum** の変種としている場合もあります。**G.weissianum** sensu H.Till は、**G.polycephalum**、**G.mazanense** v. **polycephalum** 以外に、**G.rhodantherum** や **G.guanchinense** としている場合があります。また、

図 1: *G.rhodantherum* 関係種の分布

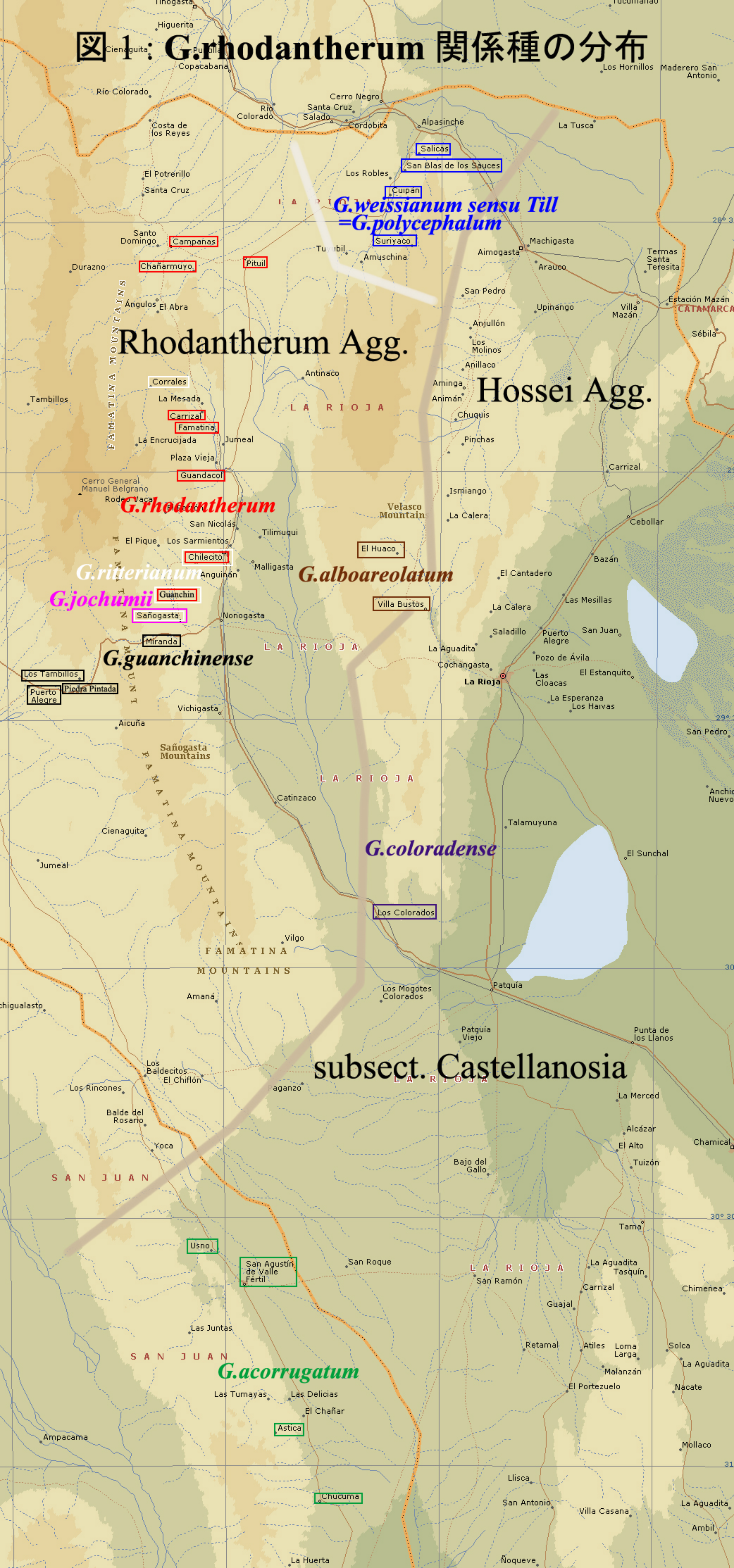


表2：Rhodantherum関係種の産地比較表

分類学種	主な産地(1)	左の産地で、他の種として同定しているものとそのField番号(間違いも含む。)	
<i>G.rhodantherum</i> (Boedeker) H.Till	Pituil, Guanchin, Chanarmuyo Chilecito, Famatina Guandacol, Carrizal(いずれもLa Rioja州)	<i>G.guanchinense</i>	BKS93/64/2, STO87-67, STO87-68, STO87-69他
		<i>G.nidulans</i>	LF19
		<i>G.weissianum</i>	WR121, EZ341
		<i>G.hossei</i> - <i>catamarcense</i>	KP74
		<i>G.hossei</i> - <i>guanchinense</i>	P79a
		<i>G.sp.</i> (aff. <i>G.hossei</i>)	P79
<i>G.guanchinense</i> Schuetz	Piedra Pintada, Puerto Alegre Miranda, Los Tambillos(いずれもLa Rioja州)	<i>G.rhodantherum</i>	WP04-201/420, MM1157, MM1158
		<i>G.guanchinense</i> v. <i>mirandaense</i>	STO87-088, LF16a, LB3313
<i>G.weissianum</i> Backeberg(sensu H.Till) = <i>G.polycephalum</i> Piltz nom. inval. = <i>G.mazanense</i> v. <i>polycephalum</i> Piltz nom. inval.	San Blas De Los Sauces, Suriyaco Schaqui(Cuipan), Salicas(いずれもLa Rioja州)	<i>G.guanchinense</i>	BKS93/61
		<i>G.rhodantherum</i>	GN93-672/1842
		<i>G.polycephalum</i> - <i>nidulans</i>	SL23a
<i>G.ritterianum</i> Rausch	Sanogasta, Chilecito Corrales, Guanchin(いずれもLa Rioja州)		
<i>G.jochumi</i> Neuhuber	Sierra de Sanogasta Santa de Vilgo(いずれもLa Rioja州)		
<i>G.alboareolatum</i> Rausch	Huaco, Villa Sanagasta(Bustos) (いずれもLa Rioja州)		
<i>G.coloradense</i> F.Berger	Los Colorados(La Rioja州)	<i>G.rhodantherum</i>	GC22.02, GC403.02, GC957.02, WP04-404/814
		<i>G.hossei</i>	GC403.02, WS81
		<i>G.hossei</i> v. <i>ferox</i>	STO87-12/1, STO92-11/1
		<i>G.mazanense</i> v. <i>nidulans</i>	PM281
<i>G.acorrugatum</i> Lambert	Usno, San Augustin de Valle Fertil Chucuma, Astica(いずれもSan Juan州)	<i>G.rhodantherum</i>	GC217.02, JL63
		<i>G.castellanosii</i>	LB440, KH364

(1)の主な産地は、H.Till氏らのAGG誌文献と多くのコレクターによるField番号情報からの筆者の推定

Till 氏の分類による亜節 *Castellanosia* Buxb. ex H.Till の *G.coloradense* は、*G.hossei*、*G.hossei* v. *ferox* とされていた時もあるように思います。

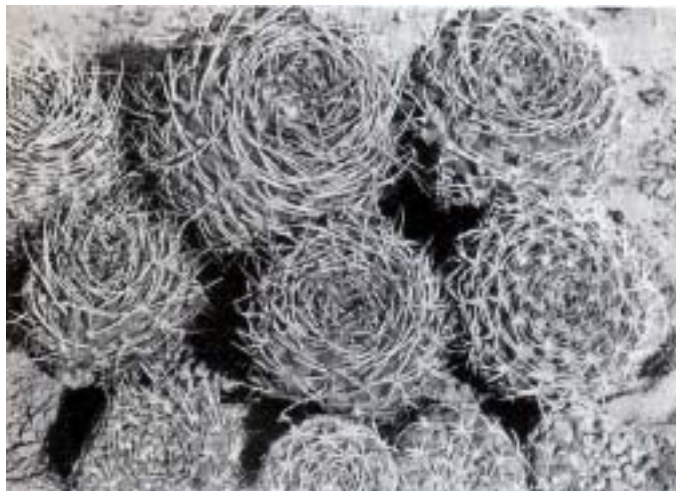


写真 6：シャボテン誌 1972 年 8 月号に載った、Chilecito 近郊のギムノカリキウム、*G.rhodantherum* と思われる。
矢端亀久男氏撮影



写真 7：同じく、シャボテン誌に載った、Chilecito 近郊のギムノカリキウム、これも *G.rhodantherum*?
矢端亀久男氏撮影



写真 9：G.sp. Famatina P79 (Chilecito 産)
薬は赤くない、Mesa 種子と思われる。Piltz 種子 4224 の P79 の薬はピンク色。この種は *G.rhodantherum*? 山城愛仙園にて、
谷山 宰氏撮影

5. 大きな分類と小さな分類

筆者は、2007 年 “*Gymnocalycium* 属における、種を細分化する分類と広い分類” と 2009 年 “マニアから見たギムノカリキウム分類考” という小文を作成し、分類学者、研究者、マニア(趣味家)などにより、種の捉え方が異なり、ギムノカリキウムのマニアとしては、困惑してしまうと言うことを書きました。**Rhodanthera** 集合体でも、非常に混乱しています。以前にも述べたように、細分化するのは、どちらかと言うと、趣味家が多く、広い分類を取るのは、分類学者が多いように思います。オーストリアの AGG やチェコの *Gymnofil* のメンバーは、細分化する分類を取る人が多いですが、IOS のメンバーは、広い分類を取る人が多いと思います。(グループの概要は、以下参照)

AGG：オーストリア・カクタス愛好家協会 (GÖK) の下部組織、ギムノカリキウム研究グループ (Austrian Arbeitsgruppe *Gymnocalycium*) としてスタートした。現在は国際的なギムノカリキウム研究グループとなっている。現在の事務局は、H.Amerhauser 氏。H.Till、W.Till、G.Neuhuber、H.Amerhauser、F.Berger 氏らオーストリアの人が主に投稿している。オランダの L.Bercht 氏やドイツの J.Piltz、D.Metzing、V.Schädlich 氏らも会員であるが、休刊した *Gymnos* のメンバーでもあり若干、オーストリアの人とは距離を置いている。GÖK 会長でもある W.Papsch 氏は、創立以来のメンバーであるが、H.Till 氏らの分類とは少し考え方が異なり、最近の主要メンバーからは

外れている。

Gymnofil : 1963 年、チェコスロバキアの B.Schütz 博士らにより創設された、ギムノカリキウム研究グループ。1976 年から 1987 年半ばまでの編集者は I.Milt 氏。1983 年、B.Schütz 博士が、健康上の理由で議長職を離れた時に、J.Odehnal 氏がなり、1994 年からは J.Prochazka 氏が務めている。Prochazka 氏は、AGG と連携を深めている。一方 I.Milt 氏は、Gymnofil とは、距離をおいている。事務局は、現在、Bruno にある Mendelu 大学教授の R.Řepka 博士で、AGG の雑誌 *Gymnocalycium* をチェコ語に翻訳して、彼らの雑誌 Gymnofil の中でも紹介している。

IOS : The International Organization for Succulent Plant Study、1950 年スイスで設立された、国際的なカクタスと多肉植物の保全と研究を目的とする組織。IOS の中で、分類に関する作業は、International Cactaceae Systematic Group(ICSG)(2000 年に Succulent Plant Study(IOS)の昔の Cactaceae Working Party に取って代わる、チューリッヒに設立された非公式のグループ)が、代表して行っている。IOS の事務局と ICSG の代表はイギリスの D.Hunt 博士で、イタリア・Trino 大学の M. Meregalli 博士、ドイツの D. Metzinger 博士、Kew 植物園と関係が深い、趣味家 G.Charles 氏らが、ギムノカリキウムでは主要メンバーである。

6. *G.rhodantherum* と *G.guanchinense* の区分

(種を細分化する分類)

H.Till 氏は、*G.rhodantherum* と *G.guanchinense* を別の分類学種と考え、次のように書いています。……

“Frić 氏は、彼の *G.spec. Guanchin*(*G.guanchinense*) を Rio Guanchin の溪谷では発見していなかった。それでその地点の数回の搜索にもかかわらず全く一つも *Gymnocalycium* が生息していなかった。Guanchin という場所は Questa de Miranda の山道の東側にあるのに対して *G.guanchinense* と規定された *Gymnocalycium* の生息圏は Quest de Miranda の山道の西側にある。その種はここでは Los Higuertas、Piedra Pintado、Puerto Alegre 近くの西側にある山裾上にある山道の数箇所広く分布して生えている。Los Tambillos 近くの赤いラテライトを含んだ土の中で見事に伸びた球形状、年数の経た物は短い円柱状の植物個体が、ここでは大抵藪の保護の下に直径 15-18 cm、高さ 20-35 cm まで到達している。……中略…… *G.guanchinense* は *G.rhodantherum* と以下の点で区別される。

上に伸びた球形状、古い個体では短い円柱形状の胴体、より長く、長さ 40mm、曲がらずに頭頂部に向かう棘の張り出し、短い子房部を持つ花、大きな

Hilum-Micropylar-Region を持つ種子と外側に曲がる Hilum の縁の上にある豊かな Elaiosom。”……



写真 5: *G.guanchinense* P226 ex Uhlig
筆者栽培・撮影



写真 6 : *G.guanchinense* P226 の花
葯が赤い。 谷山 宰氏栽培・撮影

7. W.Papsch 氏や G.Charles 氏の考え(広い分類)

W.Papsch 氏は、AGG の事務局として、長い間、雑誌 “*Gymnocalycium*” の編集者でしたが、数年前に、AGG から離脱しています。おそらく、分類に対する考え方が H.Till 氏らの主要メンバーとは相いれないものがあつたのではないかと想像します。現在は、IOS に近い考え方の分類をしています。彼は、イタリアのカクタスクラブ *Associazione Italiana Amatori Piante Succulente* の雑誌 ‘*AIAS*’ のギムノカリキウム特集に、彼の現在の考え方をまとめ、ここで話題にしている H.Till 氏の *Rhodanthera* 集合体と *Hosseiana* 集合体については、以下のように述べています。

…… “最も南の *G.spegazzinii* の生息地から南西方向、Catamarca 州に、非常に形態豊富な種が続いている。それは *G.pugionacanthum Backeberg ex Till* である。それは Salar de Pipanaco により、2 つの枝に分解する。この種の命名法的側面は、混乱以上のものがある。Backeberg 氏は、その中に、Karl Schumann 氏により学術記載された *G.hybopleurum* を認識できると信じた。Hans Till 氏と Walter Till 氏は、北の分類群を、非常に大きな変異性による条件付で、一連の変種と一緒に *G.catamarcense* (和名; 碧巖玉に該当する種) として学術記載した。しかし、全ての群生は基本的に、*G.pugionacanthum* の場合に、学術記載された、多かれ少なかれ、楕形状に並ぶ、硬い、しばしば平らになった縁刺、中刺を欠く、短くて汚れた、紫色の雄蕊を伴う、白色の花というような特徴を備えている。(筆者注 ; W.Papsch 氏や IOS の D.Hunt 博士らは、*G.pugionacanthum* = *G.catamarcense* としているが、*G.pugionacanthum* を有効化し、拡張した学術記載をしたのは、H.Till 氏である。H.Till 氏の *G.pugionacanthum* は、現在の彼の分類では、*G.hossei v. nidulans* (和名; 猛州玉) の特殊なタイプとしているので、H.Till 氏の考えを取るべきと思う。)

西の分枝は、高地 Famatina で、同じように幾分形態豊富な *G.rhodantherum (Bödecker) Backeberg* へと移行する。この種の分布地域は、Sierra de Famatina と Sierra de Sanogasta および Sierra de Velasco に沿って伸びている。その際に、山の麓から 2000m を遥かに越える高さまでのあらゆる高度の場所に定住している。やはり、この、ものすごい高度段階に分かれている事は、胴体や刺の仕上がり状態に大きな相違点を必然的に伴う。

低い場所では、個体は直径 20cm 以上までの、球形で、長くて胴体から突き出す刺になる。その際、3 本の中刺が、存在する可能性もある。高度の増加に伴って、個体はより小さくなり、偏平な球形になり、より短い刺になる。

一連の群生は、固有の種として、例えば Sierra de Famatina からは *G.guanchinense* と *G.ritterianum*、Sierra de Sanogasta からは *G.jochumii*、あるいは、Sierra de Velasco の南端からは *G.coloradense* のように学術記載された。この列の最後は、San Juan 州に、その生息地を持つ *G.acorrugatum Lambert* が形成する。この種の基準標本生息地は San Agustin de Valle Fertil である。この植物もまた偏平になった球形で、鈍い緑色、そして明らかに、横溝無しで分割された丸い瘤を伴う、際立つ稜である。刺は、長さ約 3cm の 9 本の縁刺と、1 本から 2 本のより長い上に湾曲している刺から構成されている。およそ 65mm x 60mm (訳者註 : 長さ x 直径) の大きな花は、白色から淡いバラ色 (赤味を帯びたピンク色)。花喉部はカーミン系赤色に色付く。

G.pugionacanthum (筆者注 ; *G.catamarcense* のこと) の Sierra de Ambato に沿った東の枝は、同じように、一つの形態多様な種へと移行する。その重心は Mazan 周辺に存在する。*G.hossei (Haage E.) Hill* は最初に、1927 年ハーゲ商会 (Fa. Haage) のカタログに載せられた。青緑色で、押し潰された球形の胴体の稜は、幾つかの瘤に解消されている。(変容している) 刺は大抵、長さの異なる 7 本

から構成されている。胴体の方へ曲る短い刺から、長く突き出す刺まで、そして捩じれた刺から構成されている。この根拠から、此处ではまた、多くの群生が、**G.nidulans** あるいは **G.weissianum** のように、種の分類階級で学術記載された。Backeberg 氏により学術記載された **G.mazanense** は、確実に **G.hossei** の異名と定める事が出来る。花は釣鐘形状から漏斗形状、短い花筒、暗色の花喉部を持ち、白っぽいバラ色。(バラ色=濃いピンク色) 雄蕊は、黄色っぽい、そしてバラ色の葯を持つ。
”

W.Papsch 氏は、**G.guanchinense**、**G.ritterianum**、**G.jochumii** の他に、H.Till 氏が、亜節 **Castellanisia** に属するとした、**G.coloradense** までをも **G.rhodantherum** としています。また、**G.weissianum** は、**Hosseiana** 集合体に属するとしています。また、**G.weissianum sensu Till = G.mazanense v. polycephalum** と同じ種では無く、単に **G.hossei** の変異に含まれると考えているように思います。

G.Charles 氏は、W.Papsch の考えを踏襲して、**G.guanchinense**、**G.coloradense**、**G.acorrugatum** までを **G.rhodantherum** としました。一方、高地産の **G.ritterianum** と **G.jochumii** を **G.ritterianum** としました。G.Charles 氏は、**G.weissianum sensu Till = G.mazanense v. polycephalum = G.polycephalum** を **G.hossei** とし、その分布範囲が、Mazan から Sierra de Velasco の上部(北部)でつながっている地図を載せています。この考え方は、正しいかも知れません。

G.alboareolatum=G.albiareoratum については、W.Papsch 氏も G.Charles 氏も独立した種としています。

AGG の分類と G.Charles 氏らの粗い分類の比較を表 2 に示します。また、そこに載っている主な分類学種の学術記載の時系列を表 3 に示します。学名の太字は有効に学術記載された種、表 2 の学名の青字は注意が必要な分類学種の名前で、研究者により見解が異なるもの。表 3 の学名の黒字は **Rhodantherum** 集合体(Agg.)、青字は **Hosseiana** 集合体(Agg.)、茶字はそれ以外か不明な種です。

8. まとめ

分類学種 **G.guanchinense** は、**G.rhodantherum** と区別が難しい種ですが、産地情報と植物の特徴から、区別は可能です。しかし、狭い意味での(AGG などの分類で、G.Charles 氏らの分類では無いもの) **G.rhodantherum** でも、極めて変異に富み、**G.rhodantherum** なのか、そうでないのか、区別が難しい種と思います。

現在の分類では、植物の外観、種子、花の特徴などをベースに分類しますが、分類学種とは何かについては、研究者や趣味家により、かなり個人差があるように思います。将来、遺伝子解析などの最先端の情報も入れた、新しい分類体系が出来上がることを期待します。

これまでの報告で、何度も書いていますが、原種を保存したり、増殖したりする場合、必ず、種名と Field 番号がセットでの、種の保存や増殖が必要です。同じ種名でも、全く違う種となる可能性があるからです。これは、特に広い分類での学名には要注意です。

園芸種の作出においても、同じような事が言えます。ギムノカリキウムは、特徴のある、いろいろな種があります。また種の変異幅が大きく、変異幅の中に観賞価値の高いものがたくさんありますので、Field 番号が明確な種同志からの原種選抜を主体にすべきと思います。

最後に、本稿を書くに当たり、写真などの情報を提供して頂いた、谷山宰氏、ドイツ語文献の翻訳を提供して頂いた島田 寿男氏に感謝致します。

参考文献

- Bödeker : Echinocactus (Gymnocalycium) rhodantherus Böd. sp. n., Kakteenkunde (1): 13-14(1934)
- C.Backeberg : CactaceaeⅢ, 1765-1769 (1959)
- 矢端亀久男 : アルゼンチンのサボテン(Cactus de Argentina), Chilecito(1), シャボテン誌 85 : 10-15 (1972)
- H. Till、W.Till : GYMNOCALYCIUM MAZNENSE – ein “nomen dubium” ? –Gymnos 4 (8) P79-85 (1987)
- H. Till : Neuordnung der Gattung Gymnocalycium, Gymnocalycium 14(2): 395-404 (2001)
- H. Till : Bemerkungen zu Gymnocalycium rhodantherum und den mit ihm verwandten taxa 1)G.rhodantherum (Boedeker) H.Till,Gymnocalycium 17(3) ; 579-584 (2004)
- H. Till : Bemerkungen zu Gymnocalycium rhodantherum und den mit ihm verwandten taxa, 2) Zur Identität von G.guanchinense Schütz -Gymnocalycium 17(3) ; 585-588 (2004)
- H. Till、H. Amerhauser、W. Till : Neuordnung der Gattung Gymnocalycium Gymnocalycium Sonderausgabe : 815-838 (2008)
- W.Papsch ; Genus Gymnocalycium, Special Supplement 1-2008 of Piante Grasse, ‘AIAS’ 2008
- Graham Charles : Gymnocalycium In Habitat and Culture, 2009